

令和3年度 陽南小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

日本国憲法及び教育基本法の本質、栃木県及び宇都宮市の教育目標、そして児童の実態や社会・地域の要請を受け、人間尊重の教育を基盤とした本校の教育目標を次のように設定する。

（1）基本目標

心身共に健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。 【自分に自信をもてる子を育てます】

（2）具体目標（具体的な児童像など）

- ・自ら学び、ねばり強く努力する児童（楽しく学ぶ子）
- ・思いやりをもち、助け合う児童（仲よく助け合う子）
- ・健康と安全に留意し、元気に活動する児童（元気に活動する子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

創立73年の陽南小学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、すべての教職員の力を結集するとともに学校内外の物的・人的資源を最大限に生かし、児童一人一人の確かな成長を図る学校づくりを進める。その理念と目指す学校像を次のように設定し、教育活動の充実につなげる。

理念

- ・安心と楽しさのある学校づくり
- ・ともに伸びる学校づくり
- ・家庭や地域から愛される学校づくり



学校像

- ・確かな学力を育む学校
- ・豊かな心を育む学校
- ・健康な身体を育み安全な学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が信頼と和を基盤とした協働体制のもと、教育目標や学校のあるべき姿の具現化を目指し、次の7つの方針をもとに学校経営にあたる。

- (1) すべての児童の人権を大切にし、児童が教育活動の中で自分のよさや個性を発揮し自己肯定感や自己有用感を感じることができる学校づくりに努める。
- (2) ○小中一貫としての義務教育9年間を通した系統的な指導を通して、確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着と「楽しく・わかる・できる授業」づくりに努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、児童一人一人が生き生きと安心して学校生活を送る中で、児童が自ら健康や体力等の増進に取り組む学校づくりに努める。
- (4) 学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- (5) ○「地域の学校」として学校・家庭・地域社会が互いに連携し、信頼関係を深めながら地域の教育力を高めるとともに、陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。
- (6) 学校・家庭・地域社会が一体となり教育活動の充実を図るとともに、積極的に情報を発信する開かれた学校づくりに努める。
- (7) 働き方改革を意識した教職員の労働時間の把握と勤務内容の適正化・効率化を進める。

〔陽南地域学校園教育ビジョン〕

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- ・学校教育目標の具現化を図るため、本校の実情、児童の心身の発達段階や特性、地域社会の要望、保護者の願い、更には小中一貫教育の実施を受けて、知・徳・体の調和のとれた、人間力を育む教育の推進を図ることができるよう編成する。
- ・「生きる力」を育成するために創意と工夫を加え、各教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間および特別活動等の各領域との関連を図り、調和と統一の取れた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ・学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、協働して取り組む体制づくりを進める。
 - ・学校と家庭・地域の双方向的な関係を築き、学校内外の教育的資源の有効活用を図る。
- 陽南地域学校園および小中一貫教育の積極的な取組により学校力の向上を図る。

【学習指導】

- だれもが「楽しく・わかる・できる」授業を行うことで、基礎・基本を身に付け、主体的に考え、判断し、表現することのできる児童の育成を図る。
- ・自分のよさを発揮し、生き生きと学び合うことのできる児童の育成を図る。

【児童生徒指導】

- ・基本的な生活習慣を身に付け、場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童を育成する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価							
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 「だれもが楽しく、分かる授業」の展開に努め、「できる」喜びを味わわせることで、学ぶ意欲を喚起し、自ら学習に向かっていける児童の育成を図る。 ② ペア、トリオ、グループなど学び合いの場を意図的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、聞き手を意識した話し方ができるよう指導していく。 ③ 授業や活動後に振り返りの時間を設け、自分の頑張りや友達のよさを伝え合うことで、自己肯定感を高めたり友達のよさに気付いたりすることができるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>96.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.9%</td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答率は、指標を大きく上回っている。また、市全体と比較しても、児童は、2.9ポイント上回っている。コロナ対応で制限の多い中でも、教職員が児童の自己肯定感を高めつつ、指導を工夫したことの現れだと思われる。 【次年度の方針】 ・①②③の取組を引き続き継続すると共に、下位の児童だけでなく、上位の児童もさらに向上心を高められるような工夫をしていく。	児童の肯定的回答率	96.7%	教職員の肯定的回答率	96.9%			
	児童の肯定的回答率	96.7%									
	教職員の肯定的回答率	96.9%									
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 道徳科の授業と、全教育活動との関連を図り、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心など豊かな心情を育む。 ② 児童会活動や清掃等における異年齢交流活動を通して、相手の立場を考えて思いやる心を育む。 ・ボランティア感謝の会 ③ 全クラス「きらりコーナー」、帰りの会での「今日のきらり」を設け、友達のよさを認め合えるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.9%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>90.6%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>94.2%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率はそれぞれ、指標を10.9ポイント、5.6ポイント、9.2ポイント上回っている。道徳の授業実践やきらりコーナーの活用、生活目標に取り上げたことなどが効果的だったと思われる。 【次年度の方針】 ・道徳の授業を推進していく。 ・きらりコーナーを継続して活用していく。また、異年齢交流活動班内できらりカードを記入するなどして、学年間を超えて互いのよさを認め合い、思いやりの心を育てていきたい。	児童の肯定的回答率	95.9%	教職員の肯定的回答率	90.6%	保護者の肯定的回答率	94.2%		
児童の肯定的回答率	95.9%										
教職員の肯定的回答率	90.6%										
保護者の肯定的回答率	94.2%										
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 学校のきまり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもと常時指導を継続し児童にきまりやマナーが身に付くようにする。 ② 「陽南授業・生活のきまり」をもとに、児童に自分の生活を振り返らせ、規範意識を高めるとともに、判断力・実践力の育成を図る。(振り返りは学年に応じて、年3回実施) ③ 生活目標を朝の会等で唱和させて意識化を図るとともに、あいさつ、姿勢、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップによる定着化を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.2%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>93.4%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率はそれぞれ、指標を15.2ポイント、16.9ポイント、13.4ポイント、20ポイント上回っている。全教職員の共通理解のもと、常時指導を続けたことや生活目標を焦点化して取り組んできたことが効果的だったと思われる。 【次年度の方針】 ・全教職員の共通理解のもと、「陽南のよい子」に従って同一歩調で常時指導を継続する。また、児童の実態から生活目標を設定するなどして、規範意識の薄い内容をしつかりと指導できるようにしていく。これらの活動を通して、規範意識の更なる高揚を図りたい。	児童の肯定的回答率	95.2%	教職員の肯定的回答率	96.9%	保護者の肯定的回答率	93.4%	地域住民の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	95.2%										
教職員の肯定的回答率	96.9%										
保護者の肯定的回答率	93.4%										
地域住民の肯定的回答率	100.0%										

目指す児童の姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 全職員が率先してあいさつするとともに、児童会を中心としたあいさつ運動を実施することで、元気なあいさつの意識化、習慣化を図る。 ② 全校生の模範となるあいさつ名人を各学級で認定することにより、児童同士のあいさつへの意識を高める。 ③ 「あいさつをする意味や大切さ」について、学級活動や授業などで継続的に指導する。また、学年だより等により家庭への啓発を図る。 ④ 家庭や地域学校園、地域協議会と連携して、あいさつ運動を推進する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>97.8%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>90.6%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>82.2%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率はそれぞれ、指標を17.8ポイント、10.6ポイント、2.2ポイント、20ポイント上回っている。全教職員が率先してあいさつをしたことや児童会のあいさつ運動により習慣化が図れてきたと思われる。 【次年度の方針】 ・全教職員による率先垂範やあいさつ運動等を継続し、更なる習慣化を図る。あいさつだけでなく、会釈についての指導もしていき、時と場に応じたあいさつができるようにしていきたい。	児童の肯定的回答率	97.8%	教職員の肯定的回答率	90.6%	保護者の肯定的回答率	82.2%	地域住民の肯定的回答率	100.0%
	児童の肯定的回答率	97.8%										
	教職員の肯定的回答率	90.6%										
	保護者の肯定的回答率	82.2%										
地域住民の肯定的回答率	100.0%											
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 児童が主体的に活動したり、活躍したりできる場を数多く設定するとともに、認め励ます指導を心がけ、児童の自己有用感を高めていく。 ② 学校行事や各教科の授業、各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>88.8%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>87.5%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>80.2%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率が全て、指標を上回った。保護者は、昨年度は指標を下回っていたが、今年度は昨年度より、6.4ポイント高くなり指標を達成することができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、①②③の取組を続け、様々な活動で目的を明確にして粘り強く取り組む姿勢を身に付けさせたい。	児童の肯定的回答率	88.8%	教職員の肯定的回答率	87.5%	保護者の肯定的回答率	80.2%			
児童の肯定的回答率	88.8%											
教職員の肯定的回答率	87.5%											
保護者の肯定的回答率	80.2%											
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 安全に行動できる資質や能力を育成するために、より具体的・実践的な取組をしていく。特に自転車の乗り方に関しては繰り返し指導する。指導に当たっては、市や警察などの関係機関等と連携し、安全に対する意識の向上を図る。 ② 新型コロナウイルス感染症などの感染症を予防するために、新しい生活様式を身に付け適切な行動がとれるように指導するとともに、学校生活全般において健康観察を強化する。 ③ 健全な食生活を実践できる能力を育成するため、授業や給食指導において、バランスの良い食事、食事のマナー、朝食の重要性について指導し、向上を図る。また地域学校園で「食育ファイル」や「お弁当の日」「マナー週間」など共通の取組を実施して連携を図り、実践に向けて意欲を高める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>96.7%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>93.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>88.4%</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者いずれにおいても肯定的回答率は指標を上回った。感染症対策は、今年度も取組を強化し、児童の意識も高まっている。 【次年度の方針】 ・引き続き感染症対策に取り組んでいく。 ・体力テストの結果を踏まえ、教科体育や業間の時間を活用して自己の課題に向き合い、継続して運動に親しむことができるようにする。 ・バランスよく食べることの大切さについて、継続して指導する。 ・保護者の立哨当番や地域の関係機関と連携し、安全に行動できるよう繰り返し指導していく。	児童の肯定的回答率	96.7%	教職員の肯定的回答率	93.8%	保護者の肯定的回答率	88.4%			
児童の肯定的回答率	96.7%											
教職員の肯定的回答率	93.8%											
保護者の肯定的回答率	88.4%											
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・二分の一成人式を開こう（4年） ・探そう、自分（6年） ② 夢を実現したスポーツ選手等の逸話や道徳科での説話などを通して、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>88.8%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>87.5%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>80.2%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率が全て、指標を上回った。保護者は、昨年度は指標を下回っていたが、今年度は上回ることができた。 【次年度の方針】 ・引き続き、キャリア教育のファイルを家庭と共有し、それぞれの学年で、児童が目標をもって活動している様子を伝えていく。	児童の肯定的回答率	88.8%	教職員の肯定的回答率	87.5%	保護者の肯定的回答率	80.2%			
児童の肯定的回答率	88.8%											
教職員の肯定的回答率	87.5%											
保護者の肯定的回答率	80.2%											

目指す児童の姿	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① A L Tと担任とのT Tで、効果的な外国語活動の展開を図る。 ② 外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、英語でのコミュニケーションに親しもうとする態度を育成する。 ③ 外国語活動に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>94.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答率、どちらも指標を大きく上回った。市全体と比較しても、児童生徒で、4.3 ポイント、教職員で、6.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、外国語専科教諭やA L Tと連携しながら、児童が進んで英語でのコミュニケーションに親しめるような工夫を継続していく。	児童の肯定的回答率	94.3%	教職員の肯定的回答率	100.0%			
	児童の肯定的回答率	94.3%									
	教職員の肯定的回答率	100.0%									
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。 ② 出前授業等を活用して宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深めるとともに、教師自身も宇都宮のよさを学ぶよう努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>86.1%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率が、昨年は指標を下回っていたが、今年度は、指標を上回った。 【次年度の方針】 ・コロナ対応等で、地域との触れ合いの場も少なくなってしまうが、出前授業等を取り入れるなどして宇都宮のよさを引き続き意識させていきたい。	児童の肯定的回答率	86.1%					
	児童の肯定的回答率	86.1%									
A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 積極的にI C T機器を活用する時間を設け、児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるようにする。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ I C T機器や図書資料を用いて課題を解決したり、まとめたりする喜びを味わわせる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.9%</td></tr></table> ・児童、教職員ともに肯定的回答率は指標を上回った。授業の中で、一人一台端末を使って写真を撮ったり、Jamboardで意見を出し合ったりしたことが効果的だったと思われる。 【次年度の方針】 ・調べ学習を進める中で、一人一台端末を使ったり、図書資料を用いたりしたことで学習の幅を広げていく。	児童の肯定的回答率	95.0%	教職員の肯定的回答率	96.9%				
児童の肯定的回答率	95.0%										
教職員の肯定的回答率	96.9%										
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、高齢者を思いやる心や態度の育成を図る。 ② 生活科や総合的な学習の時間、各教科の授業等において、地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。 ・昔あそび（1年） ・陽南まつり（2年） ・高齢者疑似体験（4年） ・高齢者交流会（4年） ③ ボランティア感謝の会を実施し、登下校の見守り等でお世話になっていることを振り返ることで感謝の気持ちを育てる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.9%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>90.6%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>94.2%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率はそれぞれ、指標を10.9ポイント、10.6ポイント、14.2ポイント、20ポイント上回っている。今年度は、交流活動を実施することはできなかったが、道徳科の授業等を通して高齢者を思いやる意識が高いことがうかがえる。 【次年度の方針】 ・道徳科の授業を通して、高齢者を思いやる心をさらに育てていきたい。来年度は、できるだけ交流活動・体験的活動を取り入れ、さらに実践力を養っていききたい。	児童の肯定的回答率	95.9%	教職員の肯定的回答率	90.6%	保護者の肯定的回答率	94.2%	地域住民の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	95.9%										
教職員の肯定的回答率	90.6%										
保護者の肯定的回答率	94.2%										
地域住民の肯定的回答率	100.0%										
A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上	① 社会科や総合的な学習の時間における環境教育やみやエコスクール等を通して、環境問題への関心を高め、児童一人一人の環境に対する関心や理解を深め、環境を大切に行動が取れるようにする。 ・わたしたちのくらしと環境（5年） ② 紙のリサイクルを整美委員会の活動ですすめる。 ③ 持続可能な食を支える食育の推進として食品ロスや地産地消の取組、伝統的な食文化の継承について啓発していく。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>93.5%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>71.9%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を上回った。教職員の肯定的回答率は指標より下回ったが、昨年度より8.0ポイント高くなった。 【次年度の方針】 ・再生可能エネルギー、地球温暖化などの環境問題への関心を高めるとともに、社会科や総合、道徳等において、持続可能な社会の内容に関する授業を実践し、学んだことを実生活でも生かせるように促す。	児童の肯定的回答率	93.5%	教職員の肯定的回答率	71.9%				
児童の肯定的回答率	93.5%										
教職員の肯定的回答率	71.9%										

目 指 す 児 童 の 姿		④ 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育（特に生命尊重）を計画的に実施する。		・食品ロスや地産地消について、意識を高められるように継続して指導する。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 個別の支援や配慮が必要な児童について全職員で共通理解を図り、かがやきルーム指導員や言語障害通級指導教室指導員等と連携し、全校体制で支援していく。 ② 個別の支援計画を立てて、個に応じた支援と、一人一人のニーズに応じた支援を行う。 ③ 特別支援学級においては、支援員と協同して一人一人により丁寧で細やかな指導を行う。 ④ SCMのコーディネートにより、SCが専門的観点から、本人や保護者に支援を行うとともに、担任へも効果的な助言ができるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% ・教職員の肯定的回答率は、指標を10.0ポイント上回っている。教育支援委員会や打合せ時に要配慮児童の情報交換を行い、全職員共通理解のもと全校体制で個に応じた適切な支援が実践できていると思われる。 【次年度の方針】 ・全職員が共通理解のもと、同一步調で個に応じた支援を実施していく。 ・必要に応じてケース会議を開き、支援の方針を協議したり、チーム支援体制を構築したりしニーズに応じた支援が実践できるよう努める。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%以上	① 人権週間、「いじめゼロ・にっこり集会」等を通して、互いを思いやることの大切さを理解し自分たちの生活をよりよいものにしていこうという意欲を高める。 ② 教育相談やアンケート調査を通して、「いじめ」や「いじめにつながる行動」の早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる事案が把握された場合は、いじめ防止対策委員会を開催し関係教職員が組織的に連携し、家庭の協力も得ながら解決していく。 ③ 「学校生活アンケート」を6月・10月・12月・2月に実施し、いじめを抑止するとともに把握した実態を懇談会や学年だより等で保護者に周知し家庭の理解を得ながら、児童にいじめが許されない行為であるという意識を定着させる。 ④ 学年だよりの「にっこり広場～いじめゼロの楽しい学校を目指して」のコーナーで教育活動の様子を発信する。 ⑤ いじめ防止に関する道徳の授業を全学級で行い、懇談会で説明する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.8% ・児童の肯定的回答率は指標を8.8ポイント上回っている。人権週間やいじめゼロ月間の実施や、アンケートや教育相談等による予防、早期発見・対応に努めたことなどが効果的であったと思われる。 【次年度の方針】 ・全教職員が「いじめは絶対にダメ」という姿勢を児童に見せたり、人権週間やいじめゼロ強調月間の取組やアンケートによる実態把握などでいじめを未然に防いだりして、いじめゼロに努める。 ・学年だよりへの「にっこり広場」の掲載や公開授業時に道徳の授業実践をすることで保護者・地域への発信も推進していきたい。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向のある児童に係る校内全体の情報共有を図る。 ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、欠席状況共有シートを活用したり、児童指導情報交換会・学年会・ブロック会で情報を交換したりする。また、学校の取組だけで改善することが困難な家庭環境が背景にあると思われる不登校については、関係機関（市教育センター・民生委員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども家庭課）と連携をするとともに、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。 ④ 全クラス「きらりコーナー」、帰りの	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 99.0% 保護者の肯定的回答率 94.9% ・児童・保護者の肯定的回答率はそれぞれ、指標を14.0ポイント、9.9ポイント上回っている。教職員がアンケートやQ-U調査の結果を活用し丁寧な教育相談を実施したことや休みがちな児童への個別対応を推進してきたこと、関係機関と連携を図ってきたこと、きらりコーナーなどを活用して友達のよさを認め合う指導が効果的だったと思われる。 【次年度の方針】 ・児童の自己肯定感を高められるように認め励ます指導や友達との相互理解を深める場面を確保する。 ・学校全体で情報交換を行い、指導にあたっていくとともに、関係機関と連携して改善を図っていききたい。

		会での「今日のきらり」を設け、友達 のよさを認め合えるようにする。							
目 指 す 児 童 の 姿	A16 教職員は、外国人児童 生徒等の実態に応じ て、適切な支援をして いる。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を 必要とする児童や外国人児 童の実態に応じて、適切な 支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	① 人権教育年間指導計画に基づき、全 教育活動を通して人権教育を計画的に 実施する。 ② 外国人児童や外国人の保護者につい て、全校で共通理解を図り、必要な支 援やニーズを踏まえた支援を組織的に 行う。 ③ 児童が、互いの国籍や文化、個性の 違い等を認め合い尊重しながら生活で きよう、日常的な指導に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は指標を 10.0 ポイ ント上回っている。外国人児童や外国人保 護者及び家庭状況等について教職員間で 共通理解を図るとともに、人権教育年間指 導計画に基づき、異文化理解や個を大切に した指導に取り組んできたことが効果的 だったと思われる。 【次年度の方針】 ・人権教育年間指導計画に基づき、引き続き、 人権教育、道徳教育の充実を図っていく。	教職員の肯定的回答率	100.0%			
	教職員の肯定的回答率	100.0%							
	A17 学校は、活気があり、 明るくいいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明 るく生き生きとした雰 囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童一人一人が所属感と安定感をも った居がいのある学級作りに向けて、 Q-U検査やアンケート・日常の交友 関係の観察により、児童の実態を把握 し、問題があるときは学年間で連携を 図りながら、すぐに対策を講じる。 ② 授業や学校生活の様々な場面を通し て、教職員が児童のよさや努力を認め 励ます指導を行う。 ③ 児童会活動において、児童の主体的 な活動を重視するとともに、異学年交 流を活発に行い、児童が活躍する場を 広げる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>96.8%</td></tr></table> ・児童・教職員・保護者の肯定的回答率が、 指標を 10 ポイント、15 ポイント、11.8 ポ イント上回っている。 ・日常指導や教育相談を通して児童の実態把 握に努めた。毎週全体での情報交換を行い 全職員共通理解のもと児童への対応を行 った。児童会活動では、あいさつ運動を積 極的に行い、児童間や教職員に対して進ん で挨拶をし、明るい雰囲気づくりを心掛け た。また、ホームページで毎日学校の取組 を公開したことも効果的だったと思われる。 【次年度の方針】 ・引き続き、児童の実態把握に努め、問題発 生時には学校全体で連携を図り、早期発 見・早期支援に努める。全体での情報交換 も引き続き行い、連携して対応できるよう にしていく。また、児童一人一人の活躍の 場を設けるとともに、学級・学校での取組 をホームページや便り等で保護者に向け て発信していく。	児童の肯定的回答率	95.0%	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率
児童の肯定的回答率	95.0%								
教職員の肯定的回答率	100.0%								
保護者の肯定的回答率	96.8%								
A18 教職員は、分かる授 業や児童にきめ細かな 指導を行い、学力向上 を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりや すく、一人一人に丁寧に 教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 十分な教材研究のもと、本時のめあ てを明確にするとともに、児童の理解 度に合わせた作業用紙やヒントカー ド・ヒントコーナー・教材教具を準備 し分かる授業に努める。 ② 授業の中で児童の意見を取り上げ、 認め励ますなどして生かすことで、自 信をもって自分の考えを表現したり伝 え合ったりすることができる児童の育 成を図る。 ③ 学力向上担当との連携を図った習熟 度別学習やコース別学習を行ったり、 単元によって学習体制を替えたりする など、学習形態や場の設定を工夫し、 児童の理解が深められるようにする。 ④ 計画的・構造的な板書を工夫し、児 童が課題の確認や共有、焦点化が図れ るようにするとともに振り返りの場面 で活用できるようにする。 ⑤ 「聞き方・話し方のきまり」を掲示 し意識づけを図るとともに、それらを 活用し、伝え合う力の育成を図る。 ⑥ 一人一台端末を活用し、効果的に教 科指導に役立てる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>98.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>94.2%</td></tr></table> ・児童・保護者共に、肯定的回答率は、指標 を大きく上回った。特に、保護者は、市全 体より、8.7 ポイント上回った。学校課題 研究や一人一授業を充実させ、学校全体で 授業づくりを工夫できたことがよかった と考えられる。また、ホームページで、学 校の授業の様子を毎日伝えていることも、 保護者が学校での取組を知ることによ立 っていると考ええる。 【次年度の方針】 ・学力の底上げは今後も必要だが、基礎的事 項の細やかな指導を実態に合わせて継続 していきたい。	児童の肯定的回答率	98.8%	保護者の肯定的回答率	94.2%		
児童の肯定的回答率	98.8%								
保護者の肯定的回答率	94.2%								

目 指 す 児 童 の 姿	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員が相互に助け合いながら組織的に取り組むよう努める。 ② 各々の教職員の得意分野や持ち味が生きる組織運営に努めるとともに、全教職員が互いに助け合い支え合う協働の意識をもって業務に取り組む。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.9%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は指標を 11.9 ポイント上回っている。新型コロナウイルス感染予防対策や学校課題の解決、学力向上や学校行事等に向けて、学校がチームとして組織的に取り組んできた。 【次年度の方針】 ・引き続き、互いに助け合いながら組織的に業務に取り組んでいくとともに、それぞれの得意分野が生かされたり、協働意識が高まったりするような編成や運営を進めていく。	教職員の肯定的回答率	96.9%			
	教職員の肯定的回答率	96.9%							
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の働き方改革を念頭に職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等スリム化を図る。 ③ 学習情報システムやICTを効果的に活用し、業務の効率化を図る。	A	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>78.1%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は、指標を 6.9 ポイント下回っている。教職員の負担軽減、行事のスリム化等を行い、効率化を考えた意識改革を図っているが、新型コロナウイルス感染予防対策やGIGAスクール対応も進める中で、教職員の業務改善がなかなか進んでいないと思われる。 【次年度の方針】 ・引き続き効率化を考えた意識改革や行事のスリム化、ICTの活用等を進め、業務の改善・負担軽減に努めていく。	教職員の肯定的回答率	78.1%			
	教職員の肯定的回答率	78.1%							
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 小中一貫教育のカリキュラムを充実させる。（9年間を見通した年間指導計画の作成・見直し） ② 小中乗り入れ授業を実施し地域学校園の小中の交流を促進する。 ・陽南中学校の先生による6年生への出前授業 ③ 陽南小児童会と陽南中学生徒会が協力して「あいさつ運動」を実施する。 ④ 宮っ子チャレンジ（宮チャレ）の活動を通して、小中学生の交流を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>71.2%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>87.5%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>77.5%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は指標を上回っているが、児童・保護者の肯定的回答率は指標を下回った。新型コロナウイルス感染予防対策のため、小中合同のあいさつ運動、6年生の中学校訪問等が行えなかったことが原因と考えられる。 【次年度の方針】 ・今後も、新型コロナウイルス感染予防対策のため交流活動の制限が予想される。その中でも可能な限り実施しているあいさつ運動でのスローガンの共有化、同日のお弁当の日、宮チャレでの中学生受け入れなど、小中で連携している取組の意義を担任が指導したり、便りやホームページ等で積極的に発信したりしていく。	児童の肯定的回答率	71.2%	教職員の肯定的回答率	87.5%	保護者の肯定的回答率	77.5%
児童の肯定的回答率	71.2%								
教職員の肯定的回答率	87.5%								
保護者の肯定的回答率	77.5%								
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 陽南小学校魅力ある学校づくり地域協議会（魅力協）を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行う。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用する。 ③ 学校の活動の様子を積極的に、学年だよりやホームページで公開するようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>94.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・児童、教職員、地域住民ともに肯定的回答率が指標を上回っている。新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、図書ボランティア、読み聞かせ、ミシンボランティア、クラブ支援などを実施し、特色ある教育活動が展開できた。また、ホームページで活動の様子を公開したことが成果として表れている。 【次年度の方針】 ・引き続き学校支援ボランティアを活用していくとともに、活動の目的や意義、内容を児童に伝えたり、保護者や地域に発信したりしていく	児童の肯定的回答率	94.0%	教職員の肯定的回答率	100.0%	地域住民の肯定的回答率	100.0%
児童の肯定的回答率	94.0%								
教職員の肯定的回答率	100.0%								
地域住民の肯定的回答率	100.0%								

目 指 す 児 童 の 姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① PTAによる水曜日下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼するとともに、教職員が登下校指導を実施し、登下校時における児童の安全確保に努める。 ② 地域協議会の組織を有効活用し、地域コーディネーターを中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深めるとともに児童の教育・安全の充実を図る。 ③ 「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域の教育的資源（地区市民センター・独居老人・幼稚園・保育園）を活用して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助け合う心の育成に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>94.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>89.4%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr></table> ・PTAによる下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等の協力をいただきながら、児童の安全確保に努めた。また、まつぼっくり・CBAの読み聞かせや、学習活動へのボランティアを地域協議会を通してお願いした。新型コロナウイルス感染が流行を続ける中、対策をしながら協力していただいたり、長年の取組が家庭・地域に定着したりしてきたため、児童・教職員・保護者・地域ともに肯定的回答率が指標を上回ったと思われる。 【次年度の方針】 ・引き続き、学校・家庭・地域との連携を図り、教育活動を充実させていく。	児童の肯定的回答率	94.0%	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率	89.4%	地域住民の肯定的回答率	100.0%
	児童の肯定的回答率	94.0%										
	教職員の肯定的回答率	100.0%										
	保護者の肯定的回答率	89.4%										
地域住民の肯定的回答率	100.0%											
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 管理職による施設・設備の常時点検と、月1回のチェック項目に基づく全職員での安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを見直すとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>93.9%</td></tr></table> ・教職員、保護者ともに肯定的回答率は指標を上回った。 ・月1回の安全点検を実施し、危険箇所は早期に修繕するなど、児童の安全に配慮している。また、危険箇所や修理箇所は、教職員や児童に周知し、万全を図っている。 【次年度の方針】 ・施設・設備の定期点検を行い、安全な環境づくりに十分配慮していく。 ・感染症の蔓延状況や高温の環境等の現状を的確に把握し、状況に応じた環境衛生管理に努めていく。	教職員の肯定的回答率	100.0%	保護者の肯定的回答率	93.9%					
教職員の肯定的回答率	100.0%											
保護者の肯定的回答率	93.9%											
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 一人一台端末の環境整備を行い、授業などで積極的に活用していく。 ③ 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ④ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>95.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>81.8%</td></tr></table> ・児童、教職員、保護者の肯定的回答率は、いずれも指標を上回った。特に、児童の肯定的回答率は昨年度よりも6.8ポイント、保護者は12.0ポイント高くなった。今年度から、一人一台端末が整備されたためと思われる。 【次年度の方針】 ・スクールタクトについての職員研修を行い、授業の中で積極的に活用して効果的な学びにつなげられるようにする。	児童の肯定的回答率	95.0%	教職員の肯定的回答率	96.9%	保護者の肯定的回答率	81.8%			
児童の肯定的回答率	95.0%											
教職員の肯定的回答率	96.9%											
保護者の肯定的回答率	81.8%											
B1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 学校アンケート 「児童は家庭学習の習慣が身に付いている」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、家庭学習の定着を図る。また、課題の内容を工夫し、多様な学習への取組ができるよう支援する。 ② 自主学习ノートの展示コーナー等を設け、個々の頑張りを褒め励ますとともに、よさを広めていく。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>87.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>90.6%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>77.7%</td></tr></table> ・児童・教職員の肯定的回答率は、指標を上回ったが、保護者の肯定的回答率が、昨年度よりややポイントは上がったものの指標を下回った。保護者は、児童の自主的な取組の姿が見られないと肯定的には捉えないのではないかと考える。 【次年度の方針】 ・自主学习については、個人差がある。意欲的に行っている児童の学習の様子を紹介するなど、クラス全体で家庭学習への意欲	児童の肯定的回答率	87.6%	教職員の肯定的回答率	90.6%	保護者の肯定的回答率	77.7%			
児童の肯定的回答率	87.6%											
教職員の肯定的回答率	90.6%											
保護者の肯定的回答率	77.7%											

			を高めると共に、懇談会等で、保護者への啓発を行っていく。						
B2 児童は積極的に本とふれ合い、読書の楽しさ味わうとともに、豊かな心を培っている。 学校アンケート 「児童は、学校や家で積極的に読書に親しんでいる」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒教職員 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 週2回朝の読書の時間を日課表に位置付け、図書館の開館も行う。 ② 多くの本と出会い、読書の楽しさを味わわせるために、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。 ③ 多読賞表彰や図書コーナーの充実（図書館だより、児童の読書の記録、おすすめの本の紹介などの掲示）により本に親しむ環境作りに努め、児童の読書意欲の向上を図る。 ④ 全教科の調べ学習に対応できるよう、司書と学級担任とが連携しながら必要とされる時期に必要な本の整備に努める。 ⑤ 読書の習慣化を促すため、「家読」を家庭に呼びかける。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>77.5%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答率</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答率</td><td>68.2%</td></tr></table> ・教職員の肯定的回答率は、指標を大きく上回ったが、児童・保護者の肯定的回答率は、指標を下回った。しかし、児童・保護者共に、2.6ポイント、昨年度より高くなっている。読書以外の娯楽も多く、家庭での意欲的な読書については、なかなか数値を上げるのは難しい。 【次年度の方針】 ・引き続き、本校独自の読書の取組を続け、家庭での読書の時間を確保できるように呼びかけたい。	児童の肯定的回答率	77.5%	教職員の肯定的回答率	96.9%	保護者の肯定的回答率	68.2%
児童の肯定的回答率	77.5%								
教職員の肯定的回答率	96.9%								
保護者の肯定的回答率	68.2%								
B3 児童は、自分のよさに気づき自己肯定感をもって、生活している。 学校アンケート 「自分には自分なりのよいところがあると思う」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、帰りの会やきりりコーナーで、児童が互いに認め合う場を設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 授業や学校行事、体験活動の振り返りを重視し、児童が発揮したよさや頑張りを自覚できるような自己評価、相互評価を工夫する。 ③ 見取ったよさを家庭に伝えるよう努め、学校と家庭が歩調を合わせながら自分に自信をもてる児童を育てる。	B	【達成状況】 <table><tr><td>児童の肯定的回答率</td><td>87.8%</td></tr></table> ・児童の肯定的回答率は指標を7.8ポイント上回っている。帰りの会やきりりコーナーで児童が互いに認め合う場を設けたことや学習や行事等で振り返りを実施したことなどが効果的だったと思われる。 【次年度の方針】 ・日常生活の中でも児童が互いに認め合う場を設定したり、担任が認め励ます指導を実践したりすることで、児童の自己肯定感を高めていきたい。 ・児童のよさを積極的に家庭に伝えて連携を図ることで、より児童が自信をもてるようにしていきたい。	児童の肯定的回答率	87.8%				
児童の肯定的回答率	87.8%								

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・総合的にみると、児童・保護者・教職員・地域住民、ほぼすべての項目で数値指標を達成することができた。また、児童・保護者・地域住民の多くの項目で肯定的回答率が昨年度を上回る結果となった。
 - ・全市で共通の25項目においては、児童は24項目、保護者は22項目、地域住民の回答はすべて市の平均より数値が上回っており、大変望ましい状況である。
 - ・多くの児童が学校運営や学習指導を肯定的にとらえるとともに、積極的に学校生活を送っているものと考えられる。保護者や地域住民においても、学校の取組や児童の学習、生活状況に対して、肯定的な評価がなされており、今年度の取組の成果が表れた。しかし教職員については、肯定的回答率は高いものの多くの項目で昨年度より指標が下がる結果となった。感染症の対策やそれに伴う行事や日課の変更等が多少なりとも影響していると考えられる。
 - ・今年度一人一台端末が導入され、学校におけるIT化が一気に進んだ。児童も保護者も「学習に活用している」と実感する結果になっている。職員研修の充実を図り、さらに有効に活用していけるようにしていきたい。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な活動が縮小となり、また、保護者や地域の方が来校する機会が制限された。家庭・地域に学校の活動の様子が伝わりにくい状況下であったが、学校ホームページの更新をほぼ毎日行い、情報発信を行ったことは大変有効であったと考えられる。今後も、コロナ禍の状況に応じ、様々な方法を工夫しながら情報発信に努めたい。
- 「小中一貫教育・地域学校園の取組」については、肯定的回答率が他より低かった。また「地域の教育力を生かした活動」「家庭・地域・企業等との連携・協力」での取組は、肯定的回答率は上がったが、例年より機会は少なかった。今後は、地域や家庭と連携しながら新たな取組を模索していく必要がある。

7 学校関係者評価

- ・コロナ禍ではあるが、児童の登校状況を見てもとても落ち着いて生活している様子がうかがえる。子供たちも柔軟に対応しているが、教師側からの指導や配慮が行き届いていると感じる。
- ・児童に関わる教職員、保護者、地域が一体となった結果が今回のアンケートの数値に出ているのではないかな。
- ・挨拶も今では、多くの児童が自分から声を出して会釈しながらできている。特に高学年ができており、大変良いと感じる。
- ・B2の項目の読書については、今は目で楽しみ、楽をして読むという時代のせいか、本としての媒介を手を持つ機会が減っているように思う。分からぬ文字や漢字が出てくると辞書で調べて理解するという工程も、現代ではスマホなどで簡単に見つけて理解した気分になってしまう。人間形成の大切な幼少期、学習だけでなく心や体の成長が最も大切と思われる。
- ・校長先生を中心とした学校経営がとても良く、先生方が自分のスキルを活かして子供たちと向き合ってくださっている。コロナ禍で先は見えないが、今後に対応をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○今後も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色や取組などについて積極的に発信しながら、開かれた学校づくり・地域とともにある学校づくりに努める。今年度の取組を継続・発展させながら、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域に信頼される学校づくりを推進する。

◇次年度に向けての方向性

「心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童の育成」の目標を継続し、以下の学校像を目指して全職員が学校経営に参加しながら主体的に取り組んでいく。（★は特に重要課題として取り組む）

《確かな学力を育む学校》

★学び合いの向上

・教師の授業力の向上

コロナ禍における、多様な学び合いの場の設定

聞き手を意識した表現力の向上

「楽しく・分かる・できる授業づくり」の実践

研修による資質・能力の向上

一人一台端末の効果的な活用

・基本的学習習慣の定着

「ようなん授業・生活のきまり」の徹底

・家庭学習の習慣化

家庭学習のしおりを活用した家庭との連携強化

《豊かな心を育む学校》

★規範意識の醸成

教職員の統一步調のもと「ようなん授業・生活のきまり」の徹底

道徳の時間を核としたきまりやマナーを守る意義の理解

★時と場に応じたあいさつ

家庭・地域と連携したあいさつ運動、代表委員会によるあいさつ運動の推進

・言葉づかいの定着

教師の率先垂範

学級活動及び道徳教育の充実、言語環境の充実

読書習慣の定着

読書指導の充実（読書週間・読書集会）、市図書館と連携した多様な図書への準備

読み聞かせの継続（ボランティア・教師）、家庭の協力を得た家読の推進

○人権意識の向上

人権週間・いじめゼロ集会の工夫、教育相談の充実、道徳教育の充実

教職員によるいじめの早期発見・迅速な組織的対応

「きらりコーナー」等を活用した自己肯定感・自己有用感の向上

《健康な身体を育み安全な学校》

・運動習慣の定着

運動意欲の向上を図る工夫

（業間・休み時間の運動促進、チャレンジ種目の設定、児童主体の運動イベントの企画・実践）

・好ましい生活習慣・食習慣の定着

自己の心身を大切にし、健康的な生活習慣の定着を図る支援の充実

食育指導の推進及び家庭との連携（給食だより・食育ファイル、お弁当の日振り返りカードの活用）、栄養教諭による個別面談の充実

・安全に行動できる能力育成

警察や消防署、学校薬剤師と連携した授業の充実

（避難訓練、交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室、喫煙防止教育、

自転車免許講習、SNSやスマホ・携帯電話についての講座など）